

授業概要

道徳教育は、豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促し、生徒の道徳性を育成することをねらいとするものである。道徳教育の理論と歴史、諸外国における道徳教育にも触れながら、新学習指導要領の目玉でもある「特別の教科 道徳」の授業実践の基礎を学ぶとともに、学習指導案の作成も行っていく。

授業計画

第1回	オリエンテーション（道徳とは、道徳教育の定義）
第2回	道徳教育の歴史
第3回	「道徳の時間」の授業論
第4回	諸外国における道徳教育
第5回	学校教育全体で行う道徳教育
第6回	「特別の教科 道徳」の総論
第7回	「特別の教科 道徳」の目標
第8回	「特別の教科 道徳」の内容
第9回	「特別の教科 道徳」の方法
第10回	「特別の教科 道徳」の計画
第11回	「特別の教科 道徳」の評価
第12回	学習指導過程と学習指導案
第13回	学習指導案の作成①「主として自分自身に関する内容」
第14回	学習指導案の作成②「主として他の人とのかわりに関する内容」
第15回	ふり返りとまとめ
第16回	最終課題（レポート）

到達目標

本授業の到達目標は、次の3点である。

1. 道徳教育の歴史的変遷や学校現場における実践例から道徳教育の在り方を学び、その意義を考える。
2. 新学習指導要領の目玉である「特別の教科 道徳」について目標、内容、方法を中心に学ぶ。
3. 資料を読み込み、学習指導案を作成するなど、実践的な授業に触れる。

履修上の注意

授業は、講義形式を基本とするが、講義時、受講者に意見や発表を求めることが多い。また、「特別の教科 道徳」の学習指導案の作成なども体験的に学ばせていく。

毎回、レジュメや資料を用意するが、使用するテキストを事前に熟読しておくことが望ましい。

出席については、毎回の授業の最初に呼名する。この時点で間に合わなければ遅刻扱いとする。

予習復習

予習として、各回の講義の終末に、次回のテーマに関し問うことがある。それまでの講義をふまえながら、自分なりの回答を用意し次回に臨むこと。復習は、理解が難しい部分について、当該回以外にも質問の時間を設けるので、まとめておくことが望ましい。

評価方法

講義における参加貢献度及び授業態度 30%、授業内に課す課題 20%、および最終課題（レポート）50%の結果を総合的に判断する。

テキスト

教育出版『道徳教育を学ぶための重要項目100 平成28年2月』

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』